



読みたい・知りたい情報に簡単にアクセス

大型絵本・大型紙芝居

五所川原市立図書館



読み聞かせにしたい大型絵本・大型紙芝居の
所蔵一覧を簡単に検索

<https://opac.libcloud.jp/gosho-library/search-by-subject>

図書館の本棚や展示などで左記のような貼り紙が掲示されているのを見かけたことがあるでしょうか。



「太宰治の作品をスマホで読みたい！」



「読み聞かせに大型絵本を使いたい。どんな本が
図書館にあるか知りたい！」



「デジタル化された郷土資料はどんなものがあるの？」

このような時に、その場で張り紙のQRコードを読み取ると、すぐに情報にアクセスすることができるようになっています。図書館ホームページを検索したり、該当ページはどこにあるのかといった探す手間を省くことができます。ぜひご活用ください！

新古今本

論語にある「温故知新」をもとにして図書館といえば「本」、五所川原市立図書館といえば「古」くからの郷土資料が多揃っているという当館らしいタイトルを考えました。読み方は「ほんっこしん」と津軽弁で読んでください。
※ ろ は津軽弁独特の「ち」と「っ」の中間の発音です。



【表紙第18号】

五所川原街なか文化研究会主宰、北奥文化研究会副会長を務めている半澤紀さん。ヤッテマレのルーツをたどった『資料にみる五所川原のねぶた』(G/386/H)、五所川原の歴史に関する資料を多数出版されています。

半澤さんが上記資料の原稿を出版社に持参した際、社長から「いま本は売れる時代ではない。しかし、この資料は本にして残したい」と言われ出版に至ったそうです。半澤さんは『五所川原市史』の編纂にも携わっていたのですが、当時はねぶたに関する資料が十分に揃っておらず、市史にねぶたの記事が掲載されることなく刊行されたそうです。そのため立佞武多になる前の「五所川原巨大ねぶた(明治時代頃)」についてまとめた資料が存在しない状況が長年続いていました。そこで半澤さんが立ち上がり、立佞武多の代表的なかけ声である「ヤッテマレ」のルーツやねぶたの変遷などをまとめた「前史」を執筆されました。この本はこれから先も当市の宝となる1冊です。ぜひお手にとってご覧ください。

発行 五所川原市立図書館
〒037-0046
五所川原市字栄町119
TEL: 0173-34-4334
FAX: 0173-34-3256
E-mail: tosyokan@city.goshogawara.lg.jp

知ってた？ 知らなかった？ これで1つ天才に… file.6

図書館であったレファレンス(質問)の中から皆さんの役に立ちそうなものをご紹介します！

「吉田松陰が津軽を旅した際に五所川原で食事をしたという話を聞いたが、手持ちの資料には説明がない。原文を見て確認したい。」という問い合わせがありました。

蔵書検索にて「吉田松陰 津軽」と検索すると「吉田松陰・宮部鼎蔵 津軽の旅」というタイトルの本がヒット。本文を見てみると「3月3日 藤崎を出発し、板柳・鶴田を通過して御所河原に着く。ここから金木を通り中里に出る道が～」と津軽を旅する中で、五所川原に立ち寄った記述はあったのですが、残念ながら食事をしたという記述はありませんでした。しかし、別なページで「繁田から川舟で対岸の金木神原へ渡り、更に目的の本道「下之切通り(小泊通り)」へ向けて歩いたが、蒔田村へ着いたころ、昼食時だったので、田中家で昼食をとる。」と記述がありました。

また、「金木郷土史」にも「金木を経て中里方面に出るのであったが、丁度昼食時分なので蒔田村の紺屋田中長十郎(田中氏の先祖で、中里村加藤家と並び称せられた豪農)の家に憩うて昼食した。」という記述がありました。神田橋の金木榊原側の土提に「史跡 十三、館岡街道吉田松陰ゆかり之地」と彫られた石碑、金木町の元蒔田尋常小学校跡地に「吉田松陰先生昼食の場所」と書かれた木標がありますので、吉田松陰が歩いた場所を訪ねてみてはいかがでしょうか。

学校支援 🏠 「五所川原小学校で図書館活用の授業をしました」

10月17日(木)、当館司書が五所川原小学校6年生の国語の授業「公共図書館を活用しよう」のゲストティーチャーとして授業をしてきました。タブレット端末を使用し、電子申請で貸出券の申込方法やホームページからの検索と予約方法を学び、児童たちは「図書館をもっと活用していきたい!」と話していました。また、11月6日(水)には市立図書館見学を行い、昔の新聞や江戸時代



の本、点字図書や音声読み上げ機などのバリアフリーサービスについて紹介しました。市立図書館では、公共図書館活用単元のゲストティーチャーや調べ学習で使用する本の配本などを行っています。詳細は市立図書館 HP 「学校支援」をご覧ください。



市立図書館 HP 「学校支援」

団体向け支援 🧑‍🎓 「ご希望の本を貸出します」

学校や保育園などから「〇〇についての本を貸してほしい」と依頼を受けることがよくあります。依頼内容に沿った本を用意し使用する期間に合わせて貸出をしています。これまでにどんな依頼内容があったかをご紹介します。

🚗 「好きな本」

特別支援学級への貸出
好きな本(車、犬・猫、怖い話など)



🗺️ 「修学旅行」

小学校の修学旅行
函館の観光・歴史、アイヌ、土方歳三、坂本龍馬、北海道の生態系

🌸 「心があつたまる絵本」

小学校高学年へ読み聞かせ用
ほっこりする本、友だちに関する本

学校のほか、福祉施設などの団体にも貸出をしています。来館せずに市立図書館 HP から本の検索ができます。ログインをしていただくと本の予約もできます。



市立図書館 HP 「団体貸出」

あおもり冬の読書週間 ❄️ 「県内図書館等一斉展示“はっけよい!!”」

青森県内が歓喜に沸いた尊富士関の新入幕優勝や、今年の夏に能町みね子さんと浪岡出身で相撲史研究家の今靖行さんを当館にお迎えして「大相撲爆笑トークショー」を実施したことから、「相撲」をテーマに1月4日(火曜日)~2月19日(水曜日)まで市立図書館と金木分館にて展示をしました。相撲に関する一般書や児童書、五所川原市や青森県内出身力士に関する資料、新聞記事などを展示しました。また、今さんより呼出しが座るイスや拍子木、塩を入れるかご、桶、まわしの前につける下がり、雪駄、錦絵、「不戦勝」「引分」とかかれた幕など貴重なものもお借りして展示しました。



展示期間中は大相撲1月場所と重なり、展示していた本もたくさん貸出されていました! 尊富士は10勝5敗と勝ち越していました。今後の取組もとても楽しみです。



相撲同人誌『心技体』『相撲三昧』

今靖行さんが会長を務める相撲道研究会は、1983年9月に県内初の相撲同人誌として「心技体」を36年間発行し、168号で終刊を迎えました。しかし、復刊を望む声が県内外から多数寄せられたことから、「相撲三昧」と名称を改めて再び2020年から発行することになりました。青森出身力士の紹介や本場所の回顧など相撲好きにはたまらない話題が多数掲載されています。この2つを読んでいると青森県は本当に昔から相撲王国だったことが分かります。また、驚いたのが初代横綱若乃花(花田勝治さん)の母親花田きゑさんが、五所川原市出身だったということです。錦町の久須志神社に当市出身で江戸時代の大関柏戸利助(伊勢ノ海)の石碑があるのですが、その隣にきゑさんの石碑が建立されています。知らなかった…(「心技体」77号・78号より)

